「喜い公確かりせえ。」
『可哀想に卷燒を咽喉へ詰めよつた。そんな物を鶴呑にさす依てにや。喜イ公確かりせえ。』
『アヽ苦しい。オイ皆玉子の卷燒は貰ひなや、卷燒喰ふのは命懸けやで……。』
『そんな可哀想な事したりないナ。』
ワア〳〵申して居ります。上の茶店では嬢はん坊さんを連れておいでに成るお方も有れば、藝者幇間を連れて大騒ぎをなさるお方も御座ります。下で茶ばつかり飲でる連中、是れを見て堪らん樣になりよつた。
『オイ。是りやもうジツとして居られれん、俺れに思惑が有るね。上へ往て一つ喧嘩せふ。』
『喧嘩して何ふするね。』
『俺れの云ふ通りにしたら眞實の酒飲ましたる。』
『どないするのや』
『彼奴等の前で殴り合ひの大喧嘩をするね。そしたら危險いさかい逃げよるに違ひ無い、首尾よふ往たら向ふの酒肴を此方へ持て來て飲むのや。良えやろがな。』
『喧嘩ちウて、何ふ云ふ具合に遣るのやいナ。』
『茶店の前でわざと突當るね。お前がコラ氣イ附けさらせちウと俺が、汝れこそ氣イ附けサラさんかい云ふなり、頭を三つ程殴るね。』
『ウワア痛いな。右か左か。』
『そら其時の拍子で何方になるや解らへん。』
『俺い右の頭に腫物が出來たアるね。なるべくなら左の方にしといてんか。』
『心配しいナ。痛い樣な事しやへん。馬鹿にさらすな。汝れが先に當つときがつてと、今度は向ふ脛を蹴るね。』
『痛さふな處ばつかりやな。』
『少々は我慢せえ、眞實の酒を飲ましたるのや。』
『辛抱はするけども、成る可くボンヤリ遣てや。』
『大丈夫や。さふするとお前が、そんな手荒い事せんかて譯さい解つたら良えのや無いか。譯も糞も有るかい云ふなり胸をドーンと突くね。』
『急處ばつかりやな。』
『お前が仰向けにゴロツヽ轉倒返る。其足引摺て向の小便桶へ逆樣に放り込で、石叩き込むね。』
『折角やけど俺い止めとくわ。そない仕られてまで酒飲み度い事無いワ。』
『其處まで減多に遣らへんわいナ。まア其位の呼吸で往たら良えね。』